

日本外交文書

大正十三年 第一冊

外務省

序

外務省では、明治維新以降のわが国外交の経緯を明らかにし、あわせて外交交渉上の先例ともなりうる基本的史料を提供する目的で、昭和十一年『日本外交文書』第一巻を公刊した。その後、戦争による中断はあったが、戦後、編さん事業を再開して、昭和三十八年には明治期の刊行を終え、大正期も近く完結の予定である。

また、このほか『日露戦争』、『ワシントン会議』等の特集を刊行し、さらに昭和期の編さんにも着手して『満州事変』の公刊をみるにいたった。

最近わが国をめぐる国際的環境はいよいよ複雑多岐となってきたが、本書に収録された外交史料が外交交渉上の参考となり、また近代日本外交の歴史的研究に寄与することとなれば幸いである。

昭和五十五年三月

外務省外交史料館長

例 言

- 一、本書に収録された文書は、原則として外務省所蔵記録である。
- 二、これらの文書を編さんしてできた本書の各分冊は、本年度については次の要領で区分される。
 - 第一冊 移民問題、日ソ関係その他
 - 第二冊 日中関係、国際会議その他
- 三、各分冊には原則として当該暦年限りの文書が収録され、これらの文書は、それぞれの事項の下に、文書の日付により暦日順に配列されている。
 - 在外公館より本省宛電報については、発電日付を採用した。ただし発電日の不明なものは着電日を採用し、表題の日付の下に（着）を付した。
- 四、本書に収録された文書は、原則として原書の完全な再現であり、編さんに当って原書の改変、削除、簡略化などは行なわれていない。ただし明らかな誤字はこれを訂正した。
- 五、各分冊に当該分冊限りの日付順索引を付した。

目次

一 米國ニ於ケル排日移民法成立問題	一
1 制定経緯	一
2 日米間交渉	一〇二
3 米国内ノ動向及ビ一般輿論	二三〇
4 日本国内及ビ米國以外ノ反応・反響	二八七
二 カリフォルニアニ於ケル日本人被害事件	三一五
三 カナダニ於ケル日本人移民制限問題	三三四
四 ブラジルニ於ケル移民制限問題	三五七
五 日ソ国交樹立交渉	三七六
— 芳沢・カラハン北京会談 —	
六 ソヴィエト・ロシアノ内政ト対外關係	八二一